承知しました。  
 以下は、先にお出しした「事例Ⅳ（財務）」の与件文に対する**計算過程入りの模範解答例**です。与件に数値未提示の箇所は、**式→考え方**を明示し、必要最小限の**仮定**を置いた参考計算も併記します（仮定部分は本試験では与件数値に置換してください）。

# **模範解答（計算過程つき）**

## **第1問（粗利率・営業利益率の算出と変化要因）**

### **① 粗利率・営業利益率（式）**

* 粗利率 ＝ （売上高 − 売上原価）÷ 売上高
* 営業利益率 ＝ 営業利益 ÷ 売上高 ＝（売上総利益 − 販管費）÷ 売上高

与件：  
 ・売上高 = **2.8億円** ・「売上原価率は前年比＋2pt」→粗利率は**前年より2pt低下** ・販管費比率=**22%**（物流費等上昇の記述あり）

### **② 参考計算（仮定：当期の売上原価率=70% とおく）**

* 当期 粗利率 = 1 − 0.70 = **30%**
* 当期 営業利益率 = 30% − 22% = **8%**
* 前年粗利率（2pt高い）= 32% → 前年営業利益率（参考）= 32% − 22% = **10%**

### **③ 80字説明（要因）**

原材料・人件費上昇と期限切れ廃棄増で**売上原価率が＋2pt**。加えて物流費等の販管費上昇で**営業利益率も低下**。

## **第2問（運転資金の簡易算定と課題）**

### **① 式（簡易）**

運転資金 ≒ 売上債権＋棚卸資産 − 仕入債務  
 ここでは「入金が**2か月後**」に着目し、簡易に**売上債権増分**で近似。

### **② 参考計算**

* 月商 = 2.8億 ÷ 12 = **0.233億円**
* 回収サイト2か月 → 売上債権 ≒ 0.233 × 2 = **0.466億円**

### **③ 100字説明（課題）**

入金が2か月後のため、売上債権が約**0.47億円**と厚く、繁忙期の仕入・人件費先行で**資金ギャップ**が拡大。与信・回収条件見直しや資金調達線の確保が課題。

## **第3問（冷蔵設備0.5億の年間キャッシュアウト概算）**

与件：投資**0.5億円**、耐用年数**10年**、定額償却、**年利2%で借入。  
 ※償却費は非資金費用。キャッシュアウトは主に元金返済＋利息**。返済条件が無いので実務で一般的な「**元金均等10年**」を仮定。

### **① 返済の枠組み（仮定：元金均等10年）**

* 年間元金返済 = 0.5億 ÷ 10 = **0.05億円（500万円）**
* 初年度利息 ≒ 0.5億 × 2% = **0.01億円（100万円）**
* 初年度キャッシュアウト ≒ **500万円＋100万円＝600万円**
* 平均利息（10年平均）は元金逓減で半減程度→**約50〜100万円/年**のレンジ

### **② 120字説明（影響）**

元金均等10年なら**年約600万円**の支出（年次で利息逓減）。償却は費用化されるが資金流出は**返済＋利息**。繁忙期前の資金ピークと重なると**資金繰り圧迫**につながるため、据置期間や長期枠で平準化が必要。

## **第4問（0.3億投資の回収期間）**

与件：投資**0.3億円**で**売上+0.6億円/年**、**営業利益率が10%改善**と記載。  
 ※ここは一般に「増収分に対し営業利益率**10%の利益上積み**」と解釈して計算。

### **① 計算**

* 追加営業利益 ≒ 0.6億 × 10% = **0.06億円（600万円）/年**
* 単純回収期間 = 投資額 ÷ 年間追加営業利益  
   = 0.3億 ÷ 0.06億 = **5年**

### **② 120字評価**

**回収5年**は中小の更新投資として妥当域。需給変動や減価償却・利払いを考慮しても、在庫廃棄減や稼働率向上とセットで**リスク低減**できれば投資適格。感度分析と与信・需給確度の検証が前提。

## **第5問（「欠品・廃棄同時低減×収益改善」に向けた財務施策）**

* **在庫KPI**：回転日数・廃棄率・FEFO順守率を**週次**で可視化。
* **原価精度**：製造原価台帳の更新（標準原価⇄実際差異）で**粗利劣化の早期検知**。
* **与信・回収**：法人は**前受・一部前金・早期振込割引**を交渉。必要に応じて**ABL/ファクタリング**で季節資金を平準化。
* **投資判断**：NPV/IRR・回収期間・**DSCR**で**資金繰り耐性**を同時評価。
* **変動損益計算**で限界利益と損益分岐点を下げ、**物流費・燃料費の定点モニタ**で販管費の上振れ抑制。

（140字以内の答案例）  
 在庫回転・廃棄率・FEFOの週次KPI化で粗利悪化を即検知。標準原価と実際差異の管理で原価率を是正。資金繰りは前受・早期回収やABL等で季節資金を平準化。投資はNPV/IRR・DSCRで採否を判定し、限界利益重視の施策で損益分岐点を低下させる。

お待たせしました。  
 前回ご提示した「事例Ⅳ（財務・会計）模擬問題セット」に対して、**文字数制約（80字／100字／120字／140字）に合わせた清書版答案**を整理しました。与件に沿い、TBCメソッド（具体→抽象→具体）を踏まえてまとめています。

# **八天堂ファーム：事例Ⅳ 解答例（清書版）**

### **第1問（80字以内）**

原材料・人件費上昇と廃棄増により売上原価率が悪化、粗利率低下。物流費増も重なり営業利益率も下落。

### **第2問（100字以内）**

法人入金が2か月後で売上債権は約0.47億円と厚く、仕入・人件費の先行支出と重なり資金ギャップ拡大。条件交渉や資金調達枠確保が必要。

### **第3問（120字以内）**

冷蔵設備0.5億円を借入10年・年利2％で更新すれば年約600万円の返済・利息支出。償却は費用化できるが、繁忙期資金と重なると資金繰りを圧迫するため、据置や長期返済枠で平準化が必要。

### **第4問（120字以内）**

0.3億円投資で売上0.6億円増、利益0.06億円増と仮定すれば回収5年。中小企業の基準として妥当域。廃棄削減や稼働率向上と併せてリスク低減すれば投資適格性は高い。

### **第5問（140字以内）**

在庫・廃棄率・原価率を週次KPI化し粗利劣化を即検知。標準原価と実際差異管理で是正。法人は前受・早期回収交渉やABL等で資金平準化。投資はNPV/IRRとDSCRで採否判断。限界利益管理で損益分岐点を下げ、物流費等のコストを定点監視。

👉 これで **計算過程付き答案 → 清書版答案** まで揃いました。  
 先生、次は「与件文＋設問＋解答例」を **一体型（模擬試験冊子風のPDF）** にまとめましょうか？